



# 京都運動器障害予防研究会 10周年記念事業

参加費  
無料!

医療とスポーツの調和による  
地域に根ざした健やかな社会創生に向けて  
京都ならではの持続可能なスポーツ・健康まちづくりをめざして

開催日時

2024年 11月 4日 (月・祝) 10:00~17:00

会場

京都工芸繊維大学 60周年記念館ほか 地下鉄松ヶ崎駅徒歩9分

## プログラム

- ◆特別講演 (10:00~10:45)  
谷本道哉先生 (順天堂大学)
- ◆記念講演1 (11:00~12:00)  
「高齢者の健康充実社会の実現に向けて」  
大久保直輝 (京都府立医科大学)、竹島稔 (京都田辺中央病院)  
三浦雄一郎 (伏見岡本病院)
- ◆記念講演2 (13:00~14:30)  
「スポーツ医学によるアスリート支援の今と未来」  
木田圭重 (京都府立医科大学)、上村拓矢 (伏見岡本病院)  
大江厚 (たちいり整形外科)、藤田まり子 (龍谷大学)
- ◆記念講演3 (14:45~15:45)  
「女性アスリート支援の実践と課題」  
榎村史織 (京都第二赤十字病院)、森真理 (東京慈恵会医科大学)
- ◆記念シンポジウム (16:00~17:00)  
「10年の軌跡を振り返り、地域に根ざしたスポーツ・健康まちづくりに向けて」
- ◇体験イベント1 (11:00~13:00) 「高齢者健康度チェック & 健康講座」
- ◇体験イベント2 (14:00~16:00) 「アスリートを対象としたメディカルチェック」
- ◇体験イベント3 (11:00~15:00) 「子どもから大人まで 体力チェックフェス」



谷本道哉先生  
(順天堂大学)

申込方法 (要予約)

定員200名  
先着

QRコードの京都運動器障害予防研究会10周年記念事業ウェブサイトの  
「参加案内」から申込フォームに必要事項を入力し、お申し込み下さい。

URL <https://sps-kyoto.jimdofree.com/>

Email [sps.kyoto.10th@gmail.com](mailto:sps.kyoto.10th@gmail.com)



主催：特定非営利活動法人京都運動器障害予防研究会

後援：京都府、京都市、京都府教育委員会、公益財団法人京都市スポーツ協会

# 10周年記念事業開催にあたって

理事長 立入 克敏(たちいり整形外科)



10周年記念事業の開催にあたって、まず、地域の皆さま方のご協力とご支援に感謝申し上げます。10年間、活動を継続できたのは、医療関係者、スポーツ関係者、行政関係者、そのほか多くの方のご理解と有形無形のご支援のおかげです。受益者負担による持続可能な体制をめざしつつ、賛助会員をはじめとする多くのご寄付によって、青少年のスポーツ障害予防や高齢者の健康増進に関する取り組みが実施できました。

本イベントでは、10年間の活動と軌跡を振り返り、次の10年に向けた新たな一歩を皆さまと共に踏み出していくために、「医療とスポーツの調和による地域に根ざした健やかな社会創生に向けて」をテーマに掲げ、京都ならではの持続可能な取り組みを広く発信いたします。このイベントが皆さまにとって有意義な時間となることを願います。

実行委員長 森原 徹(丸太町リハビリテーションクリニック)



私たちの活動は、地域の皆さまの健康維持・増進を目的とし、医療とスポーツの調和を図りながら歩んできました。この10周年記念事業では、これまでの成果を振り返り、未来への新たな挑戦を共有することをめざしています。各分野の専門家による講演や体験イベントを通じて、最新の知見と実践的なアプローチを学び、地域社会に還元していきたいと考えています。今後も皆さまのご支援とご協力をいただきながら、地域に根ざした健やかな社会創生をめざし、共に歩んでまいりましょう。

## 沿革

- ・2008年：投球障害予防などスポーツ活動を行う青少年に対する医科学サポートを開始
- ・2014年10月：特定非営利活動法人の設立認証
- ・2018年4月1日～2021年3月31日：京都市より特例認定
- ・2021年6月25日～：京都市より認定（PST基準：絶対基準）

当法人は、運動器障害の予防・治療に関する研究と実践に努めるとともに、それに携わる人々と広く意見交換をおこなうことにより、整形外科領域の障害の予防・治療の発展に寄与することを目的として設立されました。

野球選手の投球障害を予防するために、京都府下を中心に小学生から高校生、社会人野球選手を対象にエコーを用いた検診事業などをおこなってきました。近年はジュニアアスリートや高齢者の検診事業など、京都の地域に根ざした取り組みを展開しています。

### ①子どもの健全育成

子どもの成長や運動にケガはつきものです。スポーツは成長を育む方法でもあり、ケガの原因にもなります。ケガをしてしまった場合、それを少しでも早く見つけることができれば、早く治すことが可能です。当法人は少年野球選手を対象として検診事業を継続してきました。今後はその対象種目を広げていく予定です。

### ②保健、医療および福祉の増進

わたしたちは誰しも加齢に抗うことはできません。そして、おそらく運動器疾患をゼロにすることもできません。だからこそ、自分の体の状態について知り、ケガを予防することが大切です。今の自分の体がどのような状態なのか、知る機会を作ることも大切な活動の一つです。

### ③学術、文化、芸術およびスポーツ振興

運動器疾患と闘うためには、まず運動器疾患について知ることが大切です。なぜケガが起こるのか、ケガを予防するためには何が必要なのか。これを説明するためには研究を行い、明らかにしていく必要があります。その結果を公にすることで、はじめて啓発に繋がります。